

科目名	教育学特殊研究	担当者	キタノ 北野 秋男	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義は、学問研究を通して人間・社会を科学的に認識し、批判的に分析する能力を、以下のような目標とともに身に付けることを重視する。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな教養・知識に基づく高い倫理観を身に付け、課題に適切に適用することができる。</p> <p>II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。</p> <p>IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p>															
到達目標	<p>【一般目標（G10）】 上記の講義目的を理解した上で、教材を丁寧に読み、課題に適切に応える知識と技能を求める。また、教材を「論理的・批判的」に読む力を身に付け、「問題発見・解決力」を育成する態度や習慣を身に付ける。</p> <p>【行動目標（SB0s）】 一次資料を丁寧に読み進める「挑戦力」を身に付け、自ら考え、分析し、文章化する訓練を行う。</p>															
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 履修者は、まずは基本教材を丁寧に読み進め、自らの考え方や意見をまとめる。その上で、関連文献、参考資料なども読み、課題に深く迫る方策を検討する。特別研究指導、もしくは履修者同士で、グループ討論などを行い、他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えるといった「コミュニケーション力」も育成する。</p> <p>【学修方略（LS）と学修時間】 教材の熟読、自律的な学習、参考文献の検索と熟読、リポートの作成、掲示板上のディスカッション、ピア・レスポンス（受講者同士が、草稿段階で相互にリポートを点検し、推敲する協働活動を行う）、リポートの草稿段階で何回か修正点を求めるが、その際には謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高める「省察力」を育成する。重要な点は、求められている課題に対して、自らの明確な意見、深い思索を反映した文章になっているか否かである。参考文献など挙げる際にも、正確な情報を提示して欲しい。</p> <p>リポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。教材の学修：20時間、リポート執筆：10時間。前期で2本、後期で2本のレポートを提出。・リポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15時間。</p>															
スケジュール	<p>提出期日は、manaba-folio ならびに学事記載のとおり。初稿の提出期限は前期が8月末日、後期が12月末日とする。最終的な締め切り日は、学事歴で定められた日とする。通年30コマ分（半期15コマ分）の内容についてはmanabaにて掲載予定。ガイダンスでは、科目の内容、履修のポイントなどを説明する。</p>															
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リポート</td> <td>90%</td> <td>課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には5枚程度。一次資料を読み、深い考察があれば、高く評価します。</td> </tr> <tr> <td>観察記録</td> <td>10%</td> <td>メールのやりとりの回数・内容（観察記録）なども考慮します。</td> </tr> </tbody> </table>							種別	割合	評価基準	リポート	90%	課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には5枚程度。一次資料を読み、深い考察があれば、高く評価します。	観察記録	10%	メールのやりとりの回数・内容（観察記録）なども考慮します。
種別	割合	評価基準														
リポート	90%	課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には5枚程度。一次資料を読み、深い考察があれば、高く評価します。														
観察記録	10%	メールのやりとりの回数・内容（観察記録）なども考慮します。														
履修者への要望	<p>指定した参考図書は「学力」や「学力テスト政策」に言及した研究である。可能であれば、一読してもらいたい。レポートは、タイトルを付けて章（節）に区分し、最後に参考文献も明示すること。枚数は、最低でも4枚以上。草稿を提出して頂ければ、何度も問題点の指摘を行う。面接を希望する学生がいれば、事前連絡を頂ければ、面接も行う。</p>															

【リポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 北野秋男『現代学力テスト批判』東信堂（2018年）2,700円          教材名：</p> <p>現代の学力テスト政策を批判的に検証し、本来のあるべき「学力」や「学力テスト」のあり方を検証したものである。第1部は、文部省「全国学力・学習状況調査」の問題点と「地方学力テスト」の歴史的構造を述べる内容である。第2部は、明治以来の日本の能力主義、学歴主義を概観し、「何のために学ぶか」を思想的に検証したものである。</p>
参考図書	北野秋男・上野昌之編著『ニッポン、クライシス』学事出版（2020年）、川口俊明「全国学力テストはなぜ失敗したのか」岩波書店（2020年）、志水宏吉『全国学力テスト』岩波ブックレット（2009年）
履修上のポイント	本書は、現代のわが国の学力テスト政策の問題点を、国と地方自治体に区分して、論じたものである。学力テスト政策は、「学力向上策」における有効なツールとして、世界的な潮流となっているが、同時に、その問題点や課題も多い。わが国の場合は、2007年から「全国・学力学習状況調査」が実施されたが、その調査方法や問題構成、情報公開の仕方、テスト結果の利活用などが問題視され、専門家の間でも議論になっている。学力のあり方を考える上でも重要なテーマであり、どのように改善すべきは喫緊の課題もある。
リポート課題 1	<p>(1) テキストの「第1部」（1章～3章）を読んで、わが国の国と地方自体における学力テスト政策を批判的に検証すること。また、合わせて、その歴史的な構造も理解すること。          留意点：国と地方の学力テスト政策の特徴と問題点を指摘すること。</p>
リポート課題 2	<p>テキストの「第2部」（4章～6章）を読んで、明治以来の日本の能力主義、学歴主義を概観し、「何のために学ぶか」「どのように学ぶべきか」を思想的に検討すること。          留意点：歴史的な観点だけでなく、「状況的学習論」などの現代的な学力論にも言及すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 北野秋男他著『現代学力テスト批判』東信堂（2018年）2,700円          教材名： 佐藤 仁・北野秋男編著『世界のテスト・ガバナンス』東信堂（2021年）3,200円</p> <p>前者は、現代の学力テスト政策をより根源的な認識論の視点からテスト問題のあり方を批判的に考察したものである。後者は、世界のテスト・ガバナンスの傾向と課題を国別に検証したものである。米国型の「ハイステイクス・テスト」を規準に、どのような学力テスト政策において効果や有効性が見られるかを、比較教育学的な視点から考察している。</p>
参考図書	北野秋男他編著『アメリカ教育改革の最前線』学術出版（2012年）、北野秋男編著『現代アメリカの教育アセスメント行政の展開』東信堂（2009年）、大桃敏行他『教育改革の国際比較』ミネルヴァ書房（2007年）
履修上のポイント	前者は、現代の学力テスト政策を認識論からテスト問題を具体的に分析し、そのあり方を考察している。著者の学力観を理解し、本来の「学力のあり方」を論じて欲しい。後者は、比較教育学的な視点から世界のテスト政策を比較検証しているが、とりわけアメリカの教育改革とテスト政策の関係性を考察すること。とりわけ、アメリカの「ハイステイクス・テスト」の特徴と問題点を指摘すること。
リポート課題 1	<p>(1) 北野秋男他著『現代学力テスト批判』の第3部（7章～9章）を読んで、現代の学力テストのあり方の何が問題であり、どうすべきかを論じること。          留意点：なぜ、量的な知識を測る学力テストは問題なのか。著者の主張を的確に指摘すること。</p>
リポート課題 2	<p>(2) 佐藤 仁・北野秋男編著『世界のテスト・ガバナンス』の「序章」を読んだ上で、アメリカの教育改革と学力テスト政策について論じること。とりわけ、米国型の「ハイステイクス・テスト」の特徴や問題点を指摘すること。          留意点：テキストの「序章」を読んだ上で、アメリカ編（2章～4章）をまとめること。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	授業の内容・方法や評価の仕方、とりわけ課題提出の際の注意事項
第 2 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の概要説明と各章の内容と課題説明
第 3 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 1 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 4 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 2 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 5 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 3 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 6 回	manaba を通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第 7 回	manaba を通じて、草稿リポートの提出・添削、
第 8 回	manaba を通じて、修正リポートの再提出・再添削と最終確認
第 9 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 4 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 10 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 5 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 11 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 6 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 12 回	anaba を通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第 13 回	manaba を通じての草稿リポートの提出・添削、
第 14 回	manaba を通じての修正リポートの再提出・再添削と最終確認
第 15 回	manaba を通じてリポートの最終稿の提出

### 基本教材 2

第 1 回	授業の内容・方法や評価の仕方、とりわけ課題提出の際の注意事項
第 2 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 7 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 3 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 8 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 4 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 9 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 5 回	manaba を通じて、参考資料との内容的な類似性や差異性の確認
第 6 回	manaba を通じて、草稿リポートの提出・添削、
第 7 回	manaba を通じて、修正リポートの再提出・再添削と最終確認
第 8 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の概要説明と各章の内容と課題説明
第 9 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 2 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 10 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 3 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 11 回	manaba を通じて、テキスト『現代学力テスト批判』の「第 4 章」の重要事項の説明と質疑応答
第 12 回	manaba を通じて、米国型の「ハイステイクス・テスト」と他の国との比較や差異の確認
第 13 回	manaba を通じての草稿リポートの提出・添削
第 14 回	manaba を通じて、修正リポートの再提出・再添削と最終確認
第 15 回	manaba を通じて、リポートの最終稿の提出